

令和4年度 研究集録の刊行に寄せて

岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会長

(岩手県立釜石祥雲支援学校長)

外 館 悌

新型コロナウイルス感染症の影響から、教育活動において様々な制限や変更を余儀なくされる状況となってから、3年余りが経過しました。

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来、そして、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の到来をまさに実感する中で、教育においては2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」の姿として、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が求められています。

こうした子供たちの学びの実現のために、教職員には、「環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている」、「子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている」、「子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている」姿が期待されます。

令和4年12月の『『令和の日本型教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～』（答申）においても、学校教育の成否は、教師の力に大きく依存していることが記されており、特別支援教育の理念である「自立と社会参加」の具現化においても、大きな役割を果たすものが専門性向上のための研修であることは言うまでもありません。

こうした背景の中で、今年度も各校の研究実践に基づく成果を御提供いただき、おかげさまで特別支援教育部会研究集録第50号をまとめることができました。本研究集録を通じて、各校における研究実践が開かれたものとして、特別支援教育に携わる私たち教職員の専門性向上の一助となりますことを願いますとともに、本部会運営への御協力に感謝申し上げ、研究集録刊行の御挨拶とさせていただきます。